

お客さまセンター
092(711)5331
平日10~16時 土曜10~14時
(日・祝日休み)
購読・配達のご案内(6~20時)
0120-44-0120

西日本新聞

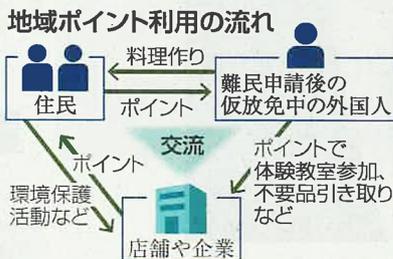
夕刊

2021年(令和3年)

12月28日(火曜日)

発行所 西日本新聞社 〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号 電話092(711)5555(代)

難民申請者に居場所を



就労禁止、行動に制限多く

難民認定を申請後、一時的に収容を解かれる仮放免中で、就労できない外国人の社会的な孤立を防ぐとさまざまな取り組みが進んでいる。郷土料理を作ってもらい換金性のない地域ポイントを渡したり、1人暮らしの高齢者と触れ合う喫茶店を開いたりして「地域社会に居場所があることを実感してほしい」と支援者は願う。



スリランカ出身の40代男性 男性は笑顔になった。が12月中旬、神奈川県鎌倉市でのイベントで、スパイスの効いたチキンカレーを振る舞った。「辛かったけど、おいしかった」。市内の小字3年瀬戸たおさん(右)が伝えるとつながる活動でたまるポイント

▲ イベントで振る舞ったチキンカレーをよそうスリランカ出身の男性
12日、神奈川県鎌倉市



● スリランカ出身男性が作ったチキンカレーを食べる瀬戸たおさん(右)とチキンカレーのお礼に、スマートフォンで地域ポイントを贈る女性(左)

金銭介さぬ料理や触れ合いの場 「必要とされる喜び」提供

センターで働く及川いずみさんは「(仮放免中は)社会に迷惑ばかり掛けて自分に価値がないと思う人が多い」と明かす。他の入居者も料理を作り、ポイントをもらって感謝され「この街にいて良いんだと感じた」と話していたという。カトリック大阪大司教区の「社会活動センター・シナビ

トで、体験教室の参加や店舗の不要品引き取りに使える。実用性は低く、渡す主な目的は生きがいづくりだ。男性は内戦下のスリランカで反政府勢力だった武装組織に命を狙われ、来日した。長年暮らした栃木県足利市での支援が打ち切られ、2020年10月に鎌倉市のNPO法人「アルベなんみんセンター」の施設に移り、まだ友人は少ない。イベントでは「みんなと話せて楽しかった」と笑った。出入国在留管理庁による「ス」も20年12月、仮放免者が近所の高齢者らを無料でもてなす喫茶店を大阪市の施設内に開いた。担立者は「互いに必要とされる喜びを感じてほしい」と語った。



難民認定制度

人種や宗教、国籍や政治的意見を理由に自国で迫害を受ける恐れがある外国人を難民として受け入れる制度。日本で認定を受けるには、出入国在留管理庁の調査官による面接などの審査

を経る必要がある。難民認定の申請中は強制送還されない。同行によると、最近の認定者数は年間50人以下で推移しており、2020年の認定率は約1%。海外では数十%の国もあり、日本は「難民鎖国」と非難を浴びている。

ワードBOX